

事務事業事後評価シート[平成26年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	博物館	■担当係	博物館
■評価事業名称	民俗村芸能公演		
■評価事業コード	402200 - 018	■会計区分	一般会計
■総合計画での位置づけ	■政策	02 生きる力を育み、文化が躍動するまちづくり	
	■基本施策	04 芸術文化の振興・国際交流の推進	
	■施策	02 ふるさとの文化財と伝統文化の継承	
■事業の種類	05 ソフト事業(任意)	■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの		
■法令等の名称			
■関連計画の名称			
■事業の目的と概要	来館者サービスとともに、民俗芸能の保存と振興を図る。民俗村園内での民俗芸能公演。		

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成26年度事業計画	平成26年度事業量実績
01	民俗村芸能公演	市民	さくらまつり期間中、民俗芸能団体5団体の芸能公演	さくらまつり期間中に1回実施し、4団体出演。

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	備考
直接事業費	125	169	130	227	
人件費	162	393	382	2,471	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	287	562	512	2,698	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	23年度	24年度	25年度	26年度	指標の説明
01	開催回数	2回	1回	1回	1回	
02	出演団体数	2団体	4団体	3団体	4団体	
03	鑑賞者数	2,664人	285人	261人	978人	

事務事業事後評価シート[平成26年度事業]

04	芸能公演1回当りコスト	144千円	562千円		
05	芸能公演1公演当りコスト	144千円	141千円		

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

さくらまつり期間のみちのく民俗村内で公演を実施し、賑わいを創出した。また、芸能公演を披露する場をつくることで、民俗芸能の保存、振興の一助となった。

問題点・課題等

公演回数が少ないためか、鑑賞者数が安定しない。平成27年4月からみちのく民俗村の商工部移管及び指定管理者制度導入により、博物館事業としては廃止とし、商工部事業という形で継続されるものに協力していく。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 事業廃止の影響

- 大きな不利益やリスクが生じる
- ある程度の不利益やリスクが生じる
- 不利益やリスクは小さい

3. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

4. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

5. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

6. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

7. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

8. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

9. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小・要改善
- IV. 民間活用・協働事業化
- V. 廃止・休止
- VI. 完了

補足説明

平成27年4月からみちのく民俗村の商工部移管及び指定管理者制度導入により、博物館事業としては廃止とし、商工部事業という形で継続されるものに協力していく。